

新専門医制度 内科領域

# 東海大学医学部付属病院における 内科専門研修



## 東海大学医学部付属病院における内科専門研修

東海大学医学部付属病院 内科専門研修プログラム（東海大内科プログラム）の基幹施設である東海大学医学部付属病院（神奈川県伊勢原市）は、特定機能病院、地域がん診療連携拠点病院として様々な高度医療を提供すると同時に、高度救命救急センター・大規模集中治療室を有し、神奈川県湘南西部～県西地域における急性期医療の中核的医療機関としての役割を担っており、広域救急搬送システムである神奈川県ドクターヘリの運用医療機関でもあります。

東海大学医学部付属病院では、従来から、4ヶ月間の総合内科研修と2ヶ月間の集中治療室研修を必須とし、大学病院ならではの高度専門医療とジェネラルな内科診療、急性期医療と慢性期疾患の診療を同時に経験できる、独自のプログラムを行ってきました。新・内科専門医制度に対応した東海大内科プログラムでは東海大学医学部付属病院での1年以上の内科研修が義務づけられていますが、専攻医の目指すキャリアに応じて自由度の高いローテート研修ができるようになっています。

1診療科あたりのローテート期間は2ヶ月から6ヶ月ですが、期間によって基本コースと応用コースに区別され、研修内容も異なります。

### 基本コース(2ヶ月)と応用コース(4-6ヶ月)

各診療科の基本コースは2ヶ月のプログラムですが、これで各領域において経験しなければならない疾患はほぼ経験できるはずです。

内科専門医取得に必要な症例経験について余裕がある場合は、各診療科が準備している応用コースを選択し、専門性の高い研修を受けることをお勧めします。応用コースは東海大学医学部付属病院独自のプログラムで、診療科毎に工夫を凝らした4ヶ月の研修（最長6ヶ月まで延長可能）です。診療科によっては、複数の研修オプションを提供しており、あなたの将来のキャリアに有益な技術を習得したり、内科専門医取得後のサブスペシャリティ研修・専門医取得を目指すためにも有利です。

### 診療科の選択と組み合わせ

ローテート研修全体での期間および内容は、選択した研修コースによってタイプAからタイプCまでの3タイプに分かれます。

#### タイプA

内科の各領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースです。総合内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液腫瘍内科、リウマチ内科、脳神経内科、腎内分泌代謝内科を2～6カ月ずつ、24ヶ月間でローテーションします。研修委員会の承認が得られれば、乳腺内分泌外科や救命救急科、画像診断科など他領域も選択が可能です。

## タイプ B

研修 1 年次に総合内科研修 4 カ月と ICU 研修 2 カ月を必修としてローテートすることで幅広い領域の疾患をより早く（18 ヶ月）経験できるコースです。1 年次の 6 ヶ月間と 2 年次の 6 ヶ月間は総合内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液腫瘍内科、リウマチ内科、脳神経内科、腎内分泌代謝内科から選択し、2～6 カ月ずつローテートします。

## タイプ C

連携施設で 1 年次の研修を行った専攻医が選択するコースで、総合内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液腫瘍内科、リウマチ内科、脳神経内科、腎内分泌代謝内科から選択し 2～6 カ月ずつローテートしますが、総合内科あるいは ICU 研修 2 ヶ月間は必修です。専門医取得に必須の JMECC の受講も 1 年間のローテート研修中に可能です。

組み合わせ方は自由です。あなたが将来、思い描いている内科医像に最もマッチしたオリジナルのプログラムを作ってみてください。

## 総合内科

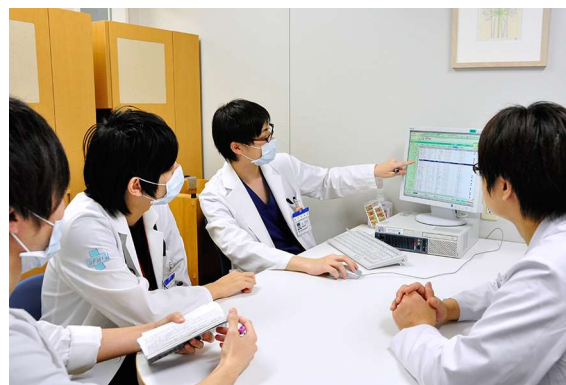
内科系臨床医にとって、狭い範囲や臓器別疾患にとらわれず、全領域に広い知識を持ち、全人的に臓器横断的な診療ができることは大切です。また、救急疾患に対し、トリアージや適切な対応ができ、身体的・検査所見だけでなく精神的・機能的な面にも配慮した診療ができる医師が必要とされています。これらのことは、将来ジェネラリストになる医師だけでなく、臓器別専門医を目指す医師においても必要不可欠です。



### 診療体制

総合内科病棟の診療を担当するチームと、集中治療（ICU）チーム、感染症コンサルトチームがあります。

病棟チームの中では、指導医-上級医-専攻医-前期研修医（1～2名）でチームを組み、1チーム10～15人の症例を受け持ちます。チームの中心となって診療・治療を実践していきます。ICUチームでは、集中治療指導医のもと専攻医と研修医（2～3名）が単位となって、ICUで診療を行います。感染症コンサルテーションチームでは、感染症専門医のもとマンツーマンで診療を行います。



### 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	
午前	勉強会（MKSAP） Morning 症例カンファレンス					Morning 症例カンファレンス	
	チーム回診						
	病棟	外来診療			病棟		
				ランチョンセミナー	診療科長回診		
午後	病棟&チーム回診						
	総合内科症例カンファレンス.	病棟カンファレンス Journal club 漢方勉強会 (1回/月)	家庭医勉強会 (2回/月)	総合内科 Problem Solving カンファレンス	感染症カンファレンス (1回/月)		
	当直 (1/週)						

朝 8 時からモーニングカンファレンス、木曜日夕方には、1 症例をじっくり検討する Problem Solving 方式のカンファレンスを開催しています。また、火曜日には医学生も参加して、New England Journal of Medicine の抄読会を毎週行っています。

## 基本コース

総合内科研修では、ホスピタリストの育成を目標としております。ホスピタリストとして必要な、内科医としての基本的な病棟管理を、コモディジーズを中心に診療し、全人的な臓器横断的な診療や考え方を研修することができます。また、日中の外来からの入院の他、夜間・時間外外来や救急車で来院した患者さんなど、最前線の内科プライマリケアを経験できます。短期コースのオプションとして、集中治療（ICUチーム）研修、感染症コンサルトチーム研修があります。



## 応用コース

総合内科病棟チームに参加して、ホスピタリストとしてコモディジーズを中心に診療し、その中で、全人的な臓器横断的な診療や内科救急の対応を身につけることを目標とします。また、応用コースでは週 1 回、上級医のサポートのもと総合内科外来を指導医のもと行い、外来終了後に指導医よりフィードバックを受け、内科外来診療の基本的なスキルを身につけることができます。ワクチン、渡航外来の見学・研修なども可能です。また基本コース同様に、内科専門医取得のために必須の JMECC を優先的に受講することが可能です。

通常の病棟チーム（ホスピタリスト）コースに、ICUチーム研修、感染症コンサルト研修をオプションとして追加し、病棟チーム（4 か月）+ ICUチーム 2 か月、病棟チーム 4 か月+ ICUチーム 1 か月+ 感染症チーム 1 か月などの組みあわせも可能です。ICU の研修では、集中治療専門医の指導のもと、内科重症疾患に対する呼吸循環管理、抗菌薬使用法、輸液管理などを研修できます。感染症チームでは、総合内科内だけでなく、病院全体から感染症のコンサルテーションや抗菌薬適正使用チームの活動を行っており、感染症専門医のもとで、感染症の診療や抗菌薬の使用について集中的に学ぶことができます。

内科専門医を修得後、以下の専門医研修のコースに進むことが可能です（今後、専門医取得の要件は変更される可能性があり、要件については各学会のホームページを参照してください）



- ① 感染症専門医
- ② 集中治療専門医
- ③ 家庭医療専門医
- ④ 渡航医学会認定医

## 循環器内科

東海大学医学部付属病院は虚血性心疾患、不整脈疾患、構造的  
心疾患、心不全の治療件数では神奈川県でも上位にはいる施設  
です。また、救命センターとの連携で多くの救急疾患に対応す  
る事が可能であり、大学病院ならではの高度医療として、弁膜  
症（大動脈弁狭窄症、僧帽弁狭窄症・閉鎖不全症）、成人先天  
性心疾患（心房中隔欠損症・卵円孔開存症）、慢性血栓性肺  
高血圧症、閉塞性肥大型心筋症などに対するカテーテルインテ  
ーベンションを提供しています。心不全診療においては従来の



治療のみならず、再入院の予防を目的とした多職種心不全チームによるカンファレンスを行っています。さらには、薬物治療やカテーテル治療に関連した様々な治験を行っております。希少な疾患に関しても総患者数が多いため経験でき、各学会に発表し、論文を作成する事ができることも特徴です。

当科の医師はカテーテル開発・使用、抗血小板剤・抗凝固剤、低侵襲カテーテル治療（冠動脈・弁膜症）、慢性完全閉塞病変治療、心臓血管病理学、心血管イメージング、末梢血管治療などにおけるエキスパートが多数在籍しており、国内外の学会発表、講演会、ライブデモンストレーション、WORK SHOP に招聘され、世界に情報を発信しており、当科の発表総数は 200/年を越えています。治療に関しても国内外で各医師は招聘され、他院医師への指導や、他院で治療が成功しなかった症例への手技を行い、他院での心血管インターベンション治療患者数だけでも 100 症例以上です。これらの医師より直接指導を受け、また希望があれば各学会や治療出張にも同行し、世界を知る第一歩を踏み出せます。また、留学経験のある医師も多数おり、将来の留学を考える相談役となることも可能です。

発展的な技術や研究の礎になる基礎的な知識と技術を身につけるとともに、海外での治療や特別講演を行う医師を多く持つ当科で学ぶことによって、日本の誇る循環器医療を間近に感じる事ができます。

## 診療体制

病棟チームはチームリーダー（准教授 or 講師）をはじめ 4-6 名で 1 チーム。不整脈チーム、虚血チーム、心不全チームの合計 3 チームで構成します。受け持ち患者数は各チーム 10 名～20 名前後であり、チーム内での後期研修医は自らの判断で検査や治療を計画し、非観血的な治療に関しては積極的に実施できます。また、研修医全体のサブリーダーと行動判断ができます。観血的な手技に関しては上級医の指導で積極的に参加し、許可があれば施行することができます。



## 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	
午前					不整脈勉強会		
	受け持ち患者情報の把握						
	朝カンファレンス チーム回診						
		経皮的動脈弁留置術、僧帽弁クリップ術、 経皮的左心耳閉鎖術、経皮的心房中隔閉鎖術			Head up tilt 試験		
	心臓カテーテル検査、経皮的冠動脈形成術、経皮的血管形成術 心臓電気生理学的検査、アブレーション			救急対応 外来見学			
	緩和ケアラウンド 心臓リハビリテーション入院カンファレンス						心エコーカンファレンス (隔週)
午後	救急対応 外来見学	経皮的動脈弁留置術、僧帽弁クリップ術、 経皮的左心耳閉鎖術、経皮的心房中隔閉鎖術			救急対応 外来見学		
	心臓カテーテル検査、経皮的冠動脈形成術、経皮的血管形成術 心臓電気生理学的検査、アブレーション						
		心筋シンチグラム (適宜)	心臓リハビリテーション (適宜)	内頸動脈ステント挿入術	経食道エコー 心肺運動負荷検査 (CPX)		
	入院症例カンファレンス カテーテルカンファレンス	不整脈カンファレンス	外科内科合同カンファレンス	心臓リハビリテーション外来カンファレンス 多職種心不全カンファレンス			
	医局会			CPC(1/月)			

## 基本コース

- 循環器の基本的な疾患に関する診断と治療方針を立てることができる
  - 心電図読影ができる
  - 経胸壁心臓超音波検査ができる
  - 経食道心エコー検査の準備と介助ができる
  - 一般的な循環器疾患の生理学/病理学の理解ができる
  - 上級医とともに中心静脈への穿刺ができる
  - 心臓カテーテル検査の介助ができる
  - 右心系カテーテル検査は自身で行う事ができる



電気生理学的検査が理解できる

心内心電図読影や至適通電部位の検索ができる

上級医とともにテンポラリーペースメーカー挿入ができる

補助循環（IABP, PCPS）や人工呼吸器の理解と管理、挿入の介助ができる

心不全の原因となる鑑別疾患を挙げられる

## 応用コース

- 循環器の基本的な疾患についての診断検査と一般治療ができる。

治療方針を自身で立て、実行できる

稀なケースであっても循環器疾患の生理学/病理学の理解ができる

入院中に心不全の原因疾患に対する検査、治療を実行し、ならびに再

入院予防を目的とした退院後を含めた治療計画を立てられる

学会発表やケースレポートの作成ができる

循環器作働薬を自身の判断で問題なく使用できる

薬物動態や作用・副作用の理解ができる

副作用が生じたときの対応ができる

経食道心エコー検査ができる

心臓カテーテル検査の一部が自身でできる

冠動脈造影ができる

PCI の方針を立てることができる

電気生理学的検査・高周波カテーテル焼灼術の介助ができる

電極カテーテルの操作ができる

ペースメーカー移植術への参加（リード操作含む）ができる

補助循環や人工呼吸器の設定が病態の変化に応じてできる

- 虚血チーム、不整脈チーム、心不全チームを2ヶ月単位の選択で組み合わせたスケジュールを立てることができる。また、心臓リハビリテーションや集中治療室における管理を中心に研修プログラムを立てることもできる。
- 初診外来は、希望によって教授、准教授、講師とともに経験する事ができる。
- 日本内科学会を始め、日本循環器学会専門医の経験必要年数、日本心血管インターベンション治療学会、日本不整脈学会、日本心エコー学会、日本心臓リハビリテーション学会などの研修期間として組み入れることができる。





## 呼吸器内科

代表的な呼吸器疾患について、内科専門医としてきちんと診断と治療方針を立てられるようになることを目指し、日本呼吸器学会指導医のもとで研修を行います。全ての専攻医が履修することが望ましい2か月間の基本コースと、呼吸器領域に含まれる様々なサブスペシャリティ、アレルギー、腫瘍医学、呼吸器内視鏡、などの専門医取得を見据えた4～6か月間の応用コースを準備しています。



東海大学医学部付属病院では、コモンディーズから希少疾患、急性疾患から慢性疾患まで、あらゆる呼吸器疾患を経験できます。医学部創立当時から医学教育に情熱を注いできた伝統を引き継いで、呼吸器内科スタッフは臨床現場での教育を重視しています。さらに研修医に学会・地方会での症例報告をしてもらう際の指導に多くの時間を費やし、それに応えて多くの研修医が今まで表彰されています。何よりも皆さんに、呼吸器病学の面白さ、醍醐味を味わってもらうことがスタッフの願いです。

## 診療体制

診療チームは、准教授・講師クラスのアテンディング医師、卒後10-15年目のチームリーダー、卒後5-9年目のスタッフ医師、専攻医、前期研修医から構成され、クラークシップの学生(医学部5-6年生)が加わります。



診療チーム A		診療チーム B	
アテンディング医師 A		アテンディング医師 B	
チームリーダー A		チームリーダー B	
スタッフ医師 A1	スタッフ医師 A2	スタッフ医師 B1	スタッフ医師 B1
専攻医 A1	専攻医 A2	専攻医 B1	専攻医 B2
前期研修医 A1	前期研修医 A2	前期研修医 B1	前期研修医 B2
クラークシップ A1	クラークシップ A2	クラークシップ B1	クラークシップ B2
患者 10-15 名	患者 10-15 名	患者 10-15 名	患者 10-15 名

専攻医はチームの研修医・学生を指導しながらスタッフ医師のアドバイスのもとに診療に従事します。サブスペシャリティ研修期間(専門研修3年次)の専攻医はチームリーダーのサポートのもとでスタッフ医師として働くことになります。

## 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
午前	チーム回診					抄読会	On call
	病棟	病棟 気管支鏡	病棟	病棟 気管支鏡	病棟	チーム回診	
						病棟	
午後	病棟 気管支鏡	呼吸ケア 回診	科長回診	症例 カンファレンス	病棟	On call	
	チーム回診						
	内科外科合同 カンファレンス 症例 カンファレンス			セミナー			

第2, 第4土曜日, 日曜は On call 体制

## 基本コース

内科専門医の資格を取得する上で経験すべき症例を主な担当医として経験し, 代表的呼吸器疾患に対しては診断と治療方針を立てられるようになることを目指します.



## 応用コース

内科専門医の資格を取得後に呼吸器関連の専門医資格を取得することも見据えたコースです。日本呼吸器学会専門医取得コースを基本としますが、複数のオプションを並行して受けることも可能です。



### ① 日本呼吸器学会専門医取得コース

日本呼吸器学会専門医（内科系）の取得には日本内科学会の専門医等の資格を取得した年度も含めて3年以上本学会の会員であること、日本呼吸器学会により認定された臨床研修を行う必要があります。呼吸器専門医の資格を取得する医師は以下の専門医資格を取得することが多く、応用コース期間中は以下のオプションコースを複数並行して受けることができます。

### ② 日本アレルギー学会専門医取得コース

日本アレルギー学会指導医・専門医の指導のもとで、1) 特殊病態を含む各種喘息，専門施設以外での経験が困難なアレルギー性呼吸器疾患、膠原病に伴う呼吸器疾患など経験が必要とされる疾患・症例数の約30%を経験ができます。さらに、2) 症例報告書（2例）の作成、3) 日本アレルギー学会指導医の外来研修（10時間以上が必要要件）、4) アレルギー関連検査（呼気NO、気道可逆性検査、気管支肺胞洗浄）への精通、5) アレルギー関連学会での発表、を行います。

### ③ 呼吸器内視鏡（気管支鏡）専門医取得コース

気管支鏡検査は呼吸器疾患診断のための重要な検査の一つですが、診断に至る経路は個々の症例で千差万別です。そのため多数症例で、1) 事前に病変への具体的なアプローチを検討、2) 実際に検査を担当、3) 検査結果をどう治療に繋げていくかを考える、という一連の流れを反復することで、気管支鏡検査に習熟するだけでなく、呼吸器疾患の診断、治療を考える力を身につけます。

呼吸器内視鏡（気管支鏡）専門医を申請するためには、日本呼吸器内視鏡学会認定施設または関連認定施設で100例以上の経験（術者として20例以上）が必要です。学会認定施設である当院の年間検査件数は450例を超えており、週2回の検査に参加することで、資格取得に必要な症例数のほとんどを経験することができます。また、専門医申請に必要な日本呼吸器内視鏡学会学術集会での学会発表も経験することも可能です。

### ④ がん治療認定医取得コース

当院は認定研修施設であり、資格取得に必要な症例（20例）を経験することが可能です。呼吸器学会の地方会などにも積極的に症例発表を行っており、資格取得に必要な癌診療における学会発表を発表者としては1例、共同演者として1例、計2例の経験が可能です。もう一つの申請条件である論文投稿も上級医の指導のもとに可能ですので、積極的にチャレンジしてください。

⑤ 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医取得コース

がん薬物療法専門医の研修プログラムでは、造血器腫瘍、呼吸器がん、消化器がん、乳がんの研修が必須です。そのため、がん薬物療法専門医の申請に必要な 30 例の受け持ち患者病歴要約には、一領域 20 例を上限に、造血器、呼吸器、消化管、乳房から各 3 例ずつの要約を含む必要があります。当科では、年間 200 例以上の新規肺癌症例があり、再診例を含め、十分な症例数を経験することができます。

肺がんの画像診断、病理診断から化学療法、放射線治療、緩和ケアといった治療まで、様々な症例を経験でき、胸腔穿刺、胸腔ドレーンの挿入・管理といった、がん薬物療法専門医の研修プログラム上で経験することが望ましいとされる診療技術も十分に経験することができます。

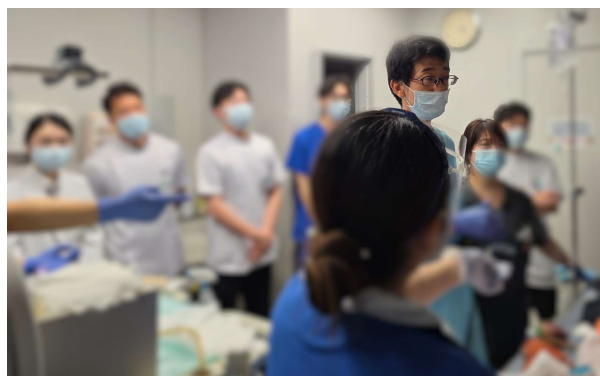
## 消化器内科

- \* 消化管、肝臓、胆膵の専門グループごとに専門医、指導医があり、各々の分野でチーム医療を基本に患者に対応しています。地域の基幹病院から紹介される患者に対する高度な治療から、当院の救急センターに搬送される一般的な救急患者への緊急処置まで幅広く対応しており、消化器内科関連専門医の取得に関わる診療はすべて経験できます。
- \* 後期研修医には積極的に患者の治療方針決定に関わってもらい、初期研修医の指導にも力を発揮してもらいたいと考えています。
- \* High volume center ならではの高度な治療に対するの適応と術後フォローなどを研修にて身につけることで、将来様々な病院に勤務し患者をより高次の病院に搬送すべきかどうかの判定を行う際にも、自信をもって判断することができます。
- \* 学会活動にも力を入れており、研修中に経験した症例を積極的に発表するよう指導し、スライド作りから発表まで上級医がサポートします。これまで多くの研修医、専修医が学会表彰を受けています。
- \* 過去に後期研修医が交替で発表した内視鏡や消化管造影画像診断のスライドが残されています。これらのスライドを用いて、指導医とともに学ぶ、もしくは自習することができます。
- \* 半年に一回程度、内視鏡や超音波検査機器を用いた、ハンズオンセミナーを開催しています。これらを体験し原理や技術の基礎を理解したうえで、実際の診療に参加し、新たな技術をマスターしていくという、無理の少ない技術習得を目指しています。



## 診療体制

消化器内科は消化管グループ、肝臓グループ、胆膵グループに分かれており、それぞれのグループに指導医-上級医-助教(大学院生)-後期研修医(前期研修医)といった1チーム4-6名体制で入院患者の診療・治療を行っております。受け持ち患者数は各チーム15名前後です。検査、治療は各チームの指導医、上級医の指導のもとで積極的に行うことができます。



## 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
午前	受持患者情報の把握						
	チーム回診						
	病棟・内視鏡検査・外来						
午後	検査・治療	総回診 入院 CR	検査・治療			上部消化管 合同 CR (内科・外科、不定期)	
	消化管 Gr CR	肝胆膵 合同 CR (内科・外科・画像 診断科)	肝 Gr 抄読会 (隔週)	ESD CR (内科・病理診断科、 不定期)	胆膵 Gr CR		
		病理 肝胆膵 CR (月 1 回)					

## 基本コース

消化管グループ、肝臓グループ、胆膵グループの3グループをローテートして研修を行います。これにより、消化器内科的な診断・治療について、指導医のもとで基本的な手技や対応についてのトレーニングを受ける事が可能です。ただし、内視鏡、緊急内視鏡、止血処置などは、ローテートとは無関係に経験することができます。プライマリーケアや救急での場面において必要とされる臨床推論能力と技能については、日々の病棟業務、カンファレンス、時間外外来等を通じて修得することができます。内科専門医を取得するために経験すべき疾患の中で未経験の疾患がある場合には、申告していただければ配慮します。



## 応用コース

消化管 Gr、肝臓 Gr、胆膵 Gr の3グループのうち、どちらかのグループを重点的にローテーションする形で、より専門的なトレーニングを受けられるようにしています。将来的に消化器内科全体に加え、関連サブスペシャリティの診療に携わり、サブスペシャリティを含んだ早期の専門医修得を目指します。

- \* 消化器内科関連サブスペシャリティの専門医、認定医としては、消化器病学会専門医、肝臓学会専門医、消化器内視鏡学会専門医をはじめ消化管学会専門医、ピロリ感染症認定医等が挙げられます。



## 血液腫瘍内科



- ◇ 血液腫瘍内科は、神奈川県央・県西部から静岡県東部までの、広大な診療圏の血液疾患の診療を一手に引き受けています。いわゆる血液難病から悪性疾患、移植治療まで、ほぼすべての血液・造血管器疾患を経験できます。
- ◇ 日本内科学会専門医、日本血液学会専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、日本造血細胞移植学会認定医が在籍しており、充実した指導体制を整えています。
- ◇ 2019年度の主要疾患入院実績は、以下の通りです。急性骨髄性白血病 54例、急性リンパ性白血病 21例、骨髄異形成症候群 30例、多発性骨髄腫 42例、リンパ腫 102例、その他（慢性骨髄性白血病、骨髄増殖性疾患など）29例。前述のうち同種造血幹細胞移植例 49例。
- ◇ 当院は日本血液学会、日本臨床腫瘍学会から研修施設として認定されています。また、2020年4月に造血幹細胞移植地域連携協力病院として選定を受けており、神奈川の移植医療の中核的役割を担っています。移植を受ける患者さんは、移植前のコーディネート、移植を経て、移植後も生活の質を保つために『長期間フォローアップ外来』（専門外来）で継続診療を受けることになります。当科では積極的に移植治療に取り組んでいますので、是非この機会に実践的かつ体系的な移植治療の実際について学んでみてください。
- ◇ 入院だけでなく、外来診療にも参加することができます。特に貧血、慢性骨髄性白血病、特発性血小板減少性紫斑病、発作性夜間血色素尿症などは、外来での診療が主体となっています。上級医や指導医の外来に積極的に参加して、数多くの症例を経験してください。



- ◇ 神奈川県内の血液内科医のネットワークは充実しており、大学や病院の垣根を超えた連携が行われています。研修医、専攻医や若手の先生を対象とした研究会も盛んですので、血液内科研修中に研究会や学会で発表の機会を持たれることをお勧めします。スライドの作り方、発表原稿の作り方、また論文の書き方など、学会発表のコツを責任を持って指導します。

## 診療体制

- ◇ 血液内科病棟研修はチーフの先生にそれぞれマンツーマンでついていただき、全体を一つのチームとして全員の患者さんを把握しながら、それぞれ受け持ち患者数を担当していただきます。担当患者数は10名前後です。当科での研修中に、内科専門医取得にあたって必要経験とされている、すべての血液疾患をほぼ経験することができます。
- ◇ 内科専攻医は、シニアとしてチーム医療に参加します。チームはチーフ - シニア（専攻医、内科専攻医：1～2名） - ジュニア（前期研修医） - 医学生で構成されます。



## 週間スケジュール

	月	火*	水	木	金	土
午前	受け持ち患者情報の把握				希望があれば 初診外来の 助手	受け持ち患者 情報の把握
	モーニングカンファレンス・ラウンド					モーニング カンファレン ス・ラウンド
	病棟					病棟
午後	病棟 学生・初期研 修医の指導	総回診	病棟	病棟	受け持ち患者 情報の把握	
		治験説明会	時間外外来 (上級医外 来)	病棟 学生・初期研 修医の指導	病棟 学生・初期研 修医の指導	
	入退院カンフ アレンス	骨髄移植カン ファレンス				
	イブニングラウンド・患者さんへの説明					

\* 骨髄採取や末梢血幹細胞採取は火曜日午前に行います

## 基本コース

- ◇ 内科専門医資格取得にあたって必要とされる、基本的・代表的な血液疾患症例を経験し、診断・治療方針、および基本的技能（抗がん剤・抗菌薬・生物製剤・分子標的薬の使い方と副作用マネジメント、輸液・輸血療法の管理、骨髄検査、病理診断など）を学ぶことを目的とします。
- ◇ 血液内科というと、ちょっと特異的な高度の専門性が強調されがちですが、実は内科医の本懐である全身管理を最も得意とする診療科です。輸液、輸血、栄養、抗生剤、抗がん剤など、これまで学ばれて来た内科的治療を十分に応用し、実践してください。抗がん剤（分子標的治療薬を含む）や輸血についてこれまで系統的に学ぶ機会がなかった方にも、わかりやすく指導しますのでご心配は不要です。内科専攻医お一人、お一人の希望や目標に合わせて、オーダーメイドで研修スケジュールを組み立てますので、研修開始前にご希望をお聞かせください。



## 応用コース

- ◇ 内科専門医資格を取得後、さらに血液専門医、がん薬物療法専門医を目指す人のためのコースです。代表的な血液疾患にとどまらず、造血幹細胞移植を含めた血液疾患症例を主治医として経験し、自ら診断・治療方針を策定できるようになることを目的とします。
- ◇ 研修開始前に面接をおこない、将来の希望や目標に合わせて、オーダーメイドで研修プログラムを作成します。
- ◇ 日本血液学会専門医取得に必要な研修目標のうち、一般病院では経験が難しい骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植、臨床試験、医師主導試験なども含めて、全ての症例を経験できます。
- ◇ 日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医取得を目指す方には、血液内科での臨床研修は「必須」となっています。内科系診療科だけではなく、日本外科学会や日本産婦人科学会など、他の診療科の基盤学会の専門医取得後のがん薬物療法専門医取得を目指す方や、また日本がん治療認定医機構のがん治療認定医、がん治療認定医（歯科口腔外科）を目指す方の研修も歓迎いたします。血液腫瘍に対するがん治療だけでなく、がんに対する支持療法の実際も、是非当科で学んでください。当科にはがん薬物療法専門医が3名在籍していますので、受験対策や試験対策などのご相談にも積極的に乗ります。



## リウマチ内科

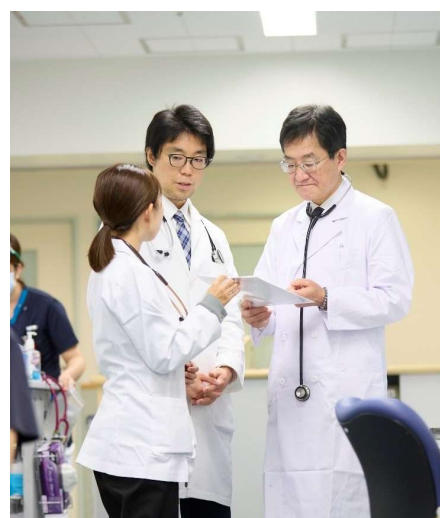
当科が専門とするリウマチ性疾患・膠原病は、全身性疾患であり、診療においては、内科各領域のみならず皮膚科、眼科、耳鼻科、整形外科など、全科的な診療能力を必要とします。指導医とともに豊富な症例の診療にあたる当科のプログラムは、一般内科医およびリウマチ専門医を目指し、研鑽を積むうえで理想的と考えられます。



- 神奈川県から委託された難病治療研究センターとして機能しており、一般病院では経験できない多様なリウマチ性疾患・膠原病患者を豊富に経験できます。
- 日本リウマチ学会の教育認定施設に指定されており、当科で臨床助手あるいは大学院生として後期研修を終了後、日本リウマチ学会専門医資格試験受験し、専門医資格の取得が可能です。
- 全身疾患の診察・診断・治療を習得することができ、将来、一般総合内科・整形外科開業に有利となると考えられます。
- 希望者は、リウマチ性疾患で重要な特異自己抗体測定など血清学的検査の進め方や判定法および測定法について学ぶことができます。また、非ステロイド性抗炎症薬(NSAID) やステロイド薬、抗リウマチ薬(DMARD)、生物学的製剤、免疫抑制剤といったリウマチ内科でよく用いられる薬物療法の基本的使用法や X 線写真等の画像検査の読影技術についてクルズスや診療を通じて学ぶことができます。
- 抄読会(月 1 回)、症例検討カンファレンス(週 1 回)を開催しており、興味深い症例においては、当科が中心的役割を担っている湘南西部リウマチ性疾患症例検討会や膠原病胸部画像読影カンファレンスでも呈示し、研修医への教育や近隣の医療機関との意見交換をおこなっています。リウマチ関連学会への出席も積極的に勤めているので、それらの学会に出席することで、より専門的に学ぶことも可能です。

## 診療体制

病棟診療はスタッフを始め臨床助手・研修医・学生を含めたチーム医療でおこなっており、1 チーム 3 ～ 5 名で構成されています。後期研修医は、初期研修医とは異なり、病棟医長、助教の指導の下、入院患者数名を直接担当し、診断および治療に主体的に参加します。外来では、初診患者の診察で、診断までの診察および検査の流れを学びます。また、緊急入院を要する患者の評価方法も習得可能です。



## 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
午前	受持患者情報の把握						
	朝ミーティング 病棟チーム回診						
	病棟	外来	病棟			病棟医長 回診 (隔週)	
午後	病棟	病棟	病棟	外来	病棟	患者 申し送り	
	チーム回診	チーム回診	教授回診	チーム回診	チーム回診	研究会 (不定期)	
	症例カンファ レンス		抄読会 (月1回) 医局会 (月1回)				

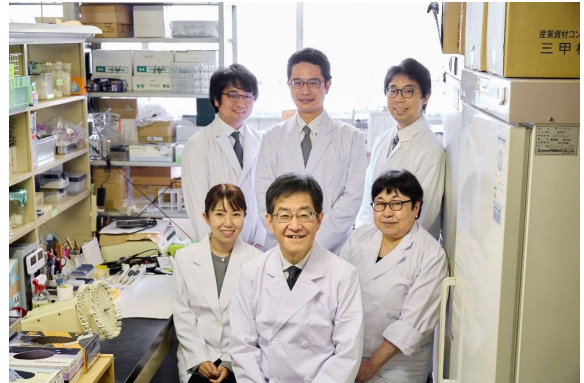
## 基本コース

- 内科専門医取得に必要な症例を経験できます。
- 病棟研修：リウマチ性疾患・膠原病疾患の入院患者を担当して、診断および治療の基本を学びます。



## 応用コース

- 病棟研修(ベーシック)：リウマチ性疾患・膠原病疾患の入院患者を担当して、診断および治療の基本を学びます。
- 病棟研修を基本として、他の研修項目（後述）を組み合わせることが可能です。ただし、同時期の研修項目は3コースまでとなります。
  - 外来研修 (オプション：2ヶ月)：外来担当医について、通院中の症例および初診患者の診断・治療について見学して学びます。
  - 自己抗体検査研修 (オプション：2ヶ月)：自己抗体検査の臨床応用について学び、リサーチアシスタントとともに自己抗体測定を行います。
  - 免疫抑制療法研修 (オプション：2ヶ月)：膠原病の治療における副腎皮質ステロイド、免疫抑制薬および分子標的治療の基礎を学び、その効果・副作用について学びます。
  - 画像読影研修(オプション：2ヶ月)：関節レントゲン、CT/MRI 検査および関節エコー検査の読影技術や実際の診療での応用について学びます。
- 症例報告：担当した症例を中心に症例報告をまとめて学会発表し、臨床研究の方法について学びます。応用コースでは、1症例の学会報告を目標とします。



## 脳神経内科

脳神経内科は、脳血管障害、神経変性疾患、神経免疫疾患、神経感染症、認知症、末梢神経障害、筋疾患、頭痛やてんかんなど神経内科領域の疾患を幅広く扱っており、中でも、脳血管障害については超急性期の血栓溶解療法や、血管内治療などの最先端の医療が行われ、伊勢原および八王子病院は我が国の医療機関としての最高評価（トリプルA：日経メディカル調べ）を受けています。

伊勢原の病棟診療は、講師以上のスーパーバイザーのもと、助教、臨床助手および研修医が一つのチームを作り、研修が行われています。また、疾患ごとの専門外来を設けており、より深く各疾患につ

き研修できる場を設けています。さらに画像カンファレンス、症例検討会、教授回診などで、臨床における教育的指導をするだけでなく、リサーチカンファレンス、抄読会などを毎週行い、各自の研究進捗状況や、最新の知見などを共有しています。また、経験した症例や研究成果に対して日本神経学会や日本脳卒中学会をはじめとする数々の国内学会をはじめ海外の学会での発表の機会を設け、それに対する指導や、その後の論文作成などについてもきめ細かく指導できる体制が整っております。

八王子、東京の各付属病院でも伊勢原と同様に専門スタッフが在籍し、チーム医療を中心に充実した教育指導を行っており、臨床助手研修後も引き続き神経内科診療を勉強できる環境が整っています。



## 診療体制

病棟チームは主に専門性のある2チームに分かれて診療を行っています（脳卒中チーム、神経免疫・感染症・神経変性疾患チーム）。後期研修医（専攻医）は、病棟チームのいずれかに配属されますが、自主性を重んじる立場より、チーム配属は考慮します。それぞれ10～15人程度の患者を受け持ち、チーム内ではリーダー（神経学会指導医）、講師もしくは助教クラスに次いで三番目の立場として診察、検査および治療方針において上級医とコンタクトを取りながら診療を実践できます。



## 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
午前	脳血管造影検査	受け持ち患者情報把握			一般外来	日直 1回/月	
		チーム回診					
	病棟・学生/初期研修医指導（ER 当番）						
午後	病棟・学生/初期研修医指導・チーム回診						
	筋電図検査	経食道ICP・ 頸動脈ICP検査	診療科長回診	認知症、頭痛 専門外来研修	脳波判読		
	入院・画像 カンファレンス 症例検討会	基礎研究ミーティング (1回/週)	MSW/リハビリ/看護師 との合同検討会	パーキンソン病外来 研修			
		脳外科との 症例検討会	抄読会 リサーチカンファレンス	認知症外来研修			
当直（1回/週）							

## 基本コース

- このコースでは、神経診察の仕方および評価方法、代表的な神経疾患の診断・治療について学び、内科専門医の取得に必要なとされる臨床経験を積むことを目標とします。
- 研修は診療チームに配属された上、神経学会認定指導医の指導の下での研修になります。
- 臨床研修と平行して、神経画像診断の読み方、脳脊髄液検査の方法および見方、筋電図の実施および所見の見方、脳波所見の読影の他、パーキンソン病、認知症診療、頭痛診療や特殊外来を選択して研修できます。



また、結婚後も臨床や研究に取り組みたい女性医師が活躍出来るための環境づくりに積極的な取り組みをしていることなども当科の特徴です。

## 応用コース

- このコースでは、神経診察が実践でき、代表的な神経疾患の診断・治療プロトコルについて学ぶことに加えて、より専門性に富んだ手技や検査方法を学ぶことを目標とします。内科 subspeciality としての神経内科専門医取得を視野に入れた研修コースとなります。
- 病棟研修は診療チームに配属され、いずれのチームも神経学会認定指導医の指導の下での研修になります。具体的には、臨床研修と平行して、脳脊髄液検査、脳血管撮影、筋電図検査、筋生検、神経生検、パーキンソン病外来、認知症、頭痛、てんかん診療などの専門的研修も選択できます。
- 神経内科専門医取得後に、さらなる専門医取得を目指す後期研修医（専攻医）には、脳卒中専門医取得コース（急性期脳卒中治療（血管内治療を含む）や慢性期の脳卒中管理、リハビリテーションなど）、血管内治療専門医取得コース（脳血管撮影や血管内治療を中心としたプログラム）、頭痛専門医取得コース（頭痛外来などでの頭痛治療など）、認知症専門医取得コース（認知症外来や地域包括ケアなどコメディカルや看護師を含めたカンファレンスなど）など様々な専門医取得に必要なプログラムを用意しております。
- さらに研修期間中、希望に応じて学会での発表や医学論文の作成の指導を受けられます。
- 臨床研修と平行して、以下の項目から必須 3 項目のほか、オプションとして最大 3 つを追加選択し、研修することができます。
  1. 神経画像診断（必須）
  2. 脳脊髄液検査（必須）
  3. 脳波（必須）
  4. 特殊検査
    - a. 脳血管撮影（選択）
    - b. 経食道エコー（選択）
    - c. 筋電図(選択)
  5. 特殊外来
    - a. 遺伝外来（選択）
    - b. 認知症外来（選択）
    - c. パーキンソン病外来（選択）





## 腎内分泌代謝内科

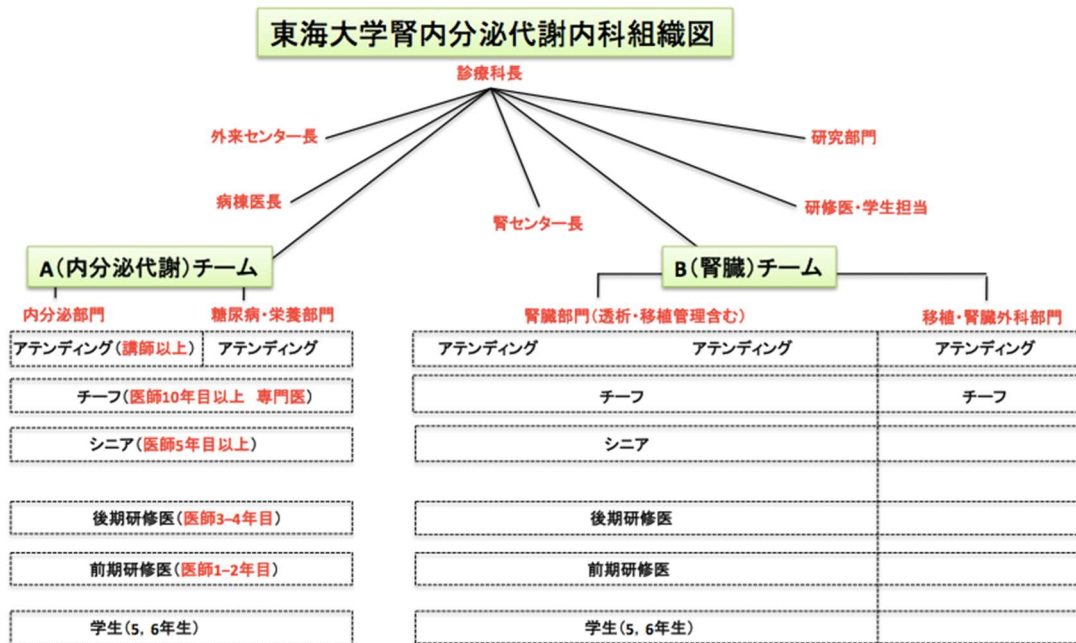
腎臓・内分泌・代謝疾患の患者診察は、内科医として論理的に問診を行い、正しい手技で身体所見をとったうえで背景にある病態生理を考え、適切な鑑別診断のもと診断に至り治療計画を立てることが重要です。当科の研修では、腎臓疾患（透析、腎移植含む）や内分泌代謝疾患（糖尿病、栄養含む）などの病態・治療法を理論的に説明できる知識と技能を身に付けるとともに、一般内科医師として不可欠なカルテ記載や症例提示（プレゼンテーション）などを正確に行える能力に磨きをかけることが可能です。専攻医は腎臓・内分泌・糖尿病の各専門医からの指導のもと、これらの資格を取得するために必要な症例を担当し、専門的な知識を習得します。他科からのコンサルテーションも多いことから、依頼された症例を通じて、医療における幅広い知識を習得することもできます。



## 診療体制

当教室の診療分野は多岐にわたります。そのため腎臓チームと内分泌代謝チームの2つに分かれて診療を行っています。さらに、腎臓チームは移植外科と連携しながら診療を行っています。教室員の出身大学は東海大学と他大学とが半々程度ですが、常に和気藹々と診療を行っており、チーム内はもとよりチーム間でも活発な意見交換がなされています。医師間の連携にとどまらず、看護師、栄養士、薬剤師、検査技師、臨床工学技士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種連携も重視して診療にあたっています。また、女性医師が活躍出来るための環境づくりに積極的な取り組みをしていることなども当教室の特徴です。当教室に在籍する女性医師は増えてきており、出産・育児の時期は時短制度などを活用しながら活躍いただいています。





専攻医は、内科専門医取得に必要な症例を経験することはもとより、腎臓専門医、内分泌代謝専門医、糖尿病専門医取得も見据えて幅広い症例を経験し、各専門医の指導のもと知識の習得を目指します。新しいサブスペシャリティ専門医制度導入により、内分泌代謝・糖尿病内科領域が1つのサブスペシャリティ領域として連動研修が可能となりましたが、内分泌・糖尿病ともに同じチーム内で学べる当科の体制は専門研修に非常に適しています。また、相互に関係の深い腎臓と糖尿病、内分泌領域を1つの臨床科内で研修できることは大きなメリットです。

### ① 腎臓チームの特徴と経験出来る手技など

腎臓チームは、腎炎・ネフローゼ症候群などの疾患の診断・治療に始まり、慢性腎臓病の保存的治療、末期腎不全に対する腎代替法導入、透析患者の合併症管理に至るまで、シームレスに研修を行うことができます。末期腎不全に関しては移植外科協力のもと、内シャント造設術、長期留置型カテーテル挿入術だけでなく、腎移植や二次性副甲状腺機能亢進症の手術から管理まで学ぶことが可能です。研修は、医師年数に応じて、その力量、希望に応じて行われます。

### ② 内分泌代謝チームの特徴と経験出来る手技など

内分泌領域では、内分泌疾患特有の各種負荷試験の実際を学び、経験することが可能です。脳神経外科、腎泌尿器科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科などの外科系の診療科とこまめに連携をとりながら、下垂体・副腎・甲状腺・副甲状腺疾患の周術期管理について学ぶことができます。代謝領域では、糖尿病の外来診療の他、病棟における各診療科からの血糖管理のコンサルテーション対応を行います。糖尿病性ケトアシドーシスや重症低血糖などの糖尿病救急疾患の管理について学ぶことも可能です。また、インスリンポンプ導入など学会認定施設ならではの先端治療を経験できます。腎臓チームと連携し糖尿病性腎症の初期から透析導入に至るまでの管理について学ぶことも可能です。

高血圧症に関しては、腎臓・内分泌・糖尿病の各分野からの視点で学習することができることも、診療分野が広範囲に及ぶ当教室ならではの特徴です。

## 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
午前	回診前の診察						
	各チーム回診						
	その他, 外来, 病棟, 透析室業務, 手術サポートなど (上級医師と)						
午後	透析カンファレンス	新患報告準備	新患報告	腎生検/腎移植外科 カンファレンス 回診	回診	回診	
	回診	回診	病棟総回診				
	教室カンファレンス (症例検討/学会予行など)	糖尿病カンファレンス	内分泌カンファレンス 回診				

## 基本コース

内科専門医の資格を取得するうえで必要な腎臓・内分泌・代謝疾患を経験し、診断と治療方針を立案できるようになることを基本目標とします。最終的には、内科専門研修プログラムの症例登録や病歴要約のみならず、症例報告の学会発表や論文作成ができるようになることが目標です。腎臓領域、内分泌代謝領域、いずれの領域を選択するかは、可能な限りご本人の希望に応じた研修プログラムを作成します。



## 応用コース

腎臓専門医、内分泌代謝専門医、糖尿病専門医といった各専門医を取得するうえで必要な疾患を経験し、専門家として適切な診断と治療方針を立案できるようになることを基本目標とします。専門医取得課程としては、各サブスペシャリティ専門医試験提出に必要な病歴要約の完成が最終目標となります。腎臓領域・内分泌代謝領域における研修期間とその内容に関しては、可能な限りご本人の希望を優先した研修プログラムを作成します。

### ① 腎臓専門医取得コース

腎臓専門医の資格取得を見据えたコースです。新専門医制度では、腎臓領域では内科専門研修2年目からの連動研修が可能であり、このコースでは腎臓専門研修カリキュラムに対応します。腎臓チームを2-6ヶ月の範囲でローテーションする他、移植外科との連携により腎不全外科（腎移植・透析用バスキュラーアクセス造設など）の研修も行います。また、腎・血液透析センターやICUにおいて血液透析やアフレスイス、急性血液浄化療法などの経験を積むことができます。また、末期腎不全の原疾患として重要な糖尿病性腎症についても早期から関わることができるのも特徴です。



新専門医制度における腎臓専門医取得のためには、認定教育施設等で最低3年以上腎臓指導医の指導を受ける必要があり、所定の症例経験・登録と病歴要約提出が求められています。腎炎・ネフロゼ症候群、慢性腎臓病のみならず、維持透析や腎移植に至るまで広範囲の領域の経験が求められますが、当院では腎生検症例は豊富にあり、腎代替療法は腹膜透析・腎移植を含め全て対応可能であることから、専門研修に必要な症例を幅広く経験することができます。また、新専門医制度で求められているコンサルテーション症例経験や外来診療経験も当教室では十分に積むことができます。さらに、主要な国内学会のみならず、国際学会での発表や論文、雑誌などへの投稿の機会も持つことが可能です。

### ② 内分泌代謝・糖尿病内科専門医取得コース

内分泌代謝・糖尿病内科専門医の資格取得を見据えたコースであり、内分泌代謝チームの中で内分泌・糖尿病症例を中心にした外来と病棟の両方を2-6ヶ月間研修します。新専門医制度では、この領域は内科専門プログラムとの連動研修が可能であり、内科専門研修2年目以降に研修を開始します。糖尿病や脂質代謝異常、副腎疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患などの広範囲の内分泌疾患を経験可能であることが当科研修の特徴であり、新専門医制度における研修修了条件にあわせて対応可能となる見込みです。糖尿病の研修ではインスリンポンプ（CSII）



や24時間血糖モニタリング（CGM, isCGM）を使用する症例の経験を積むことができるほか、腎症などの重要な合併症に触れることができるのも当科での研修の大きな特徴です。内分泌代謝・糖尿病内科専門研修の後、さらに専門性の高い内分泌専門研修または糖尿病専門研修を行い、内分泌専門医または糖尿病専門医を取得する道も用意します。また、主要な国内外の学会での発表や論文、雑誌などへの投稿の機会も持つことが可能です。

別表 1

## 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時	専攻医3年修了時	専攻医2年修了時	専攻医1年修了時	※5 病歴要約提出数
		カリキュラムに示す疾患群	修了要件	経験目標	経験目標	
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例					2	
剖検症例					1	
合計※5	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※ 3	
症例数※5	200以上 (外来は最大 20)	160以上 (外来は最大 16)	120以上	60以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2 例+「代謝」1 例、「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。

## 地域参加型カンファレンス

### 総合内科

- 1) 大船G I Mカンファレンス
- 2) 東海大学病院地域医療連携カンファレンス

### 消化器

- 1) 神奈川県消化器病医学会 (年 1 回)
- 2) 神奈川県消化器病研究会 (年 1 回)
- 3) 神奈川県消化器病医学会分科会 (年 1 回)

### 循環器

- 1) 厚木循環器研究会
- 2) 西湘循環器カンファランス
- 3) 西湘フットケア
- 4) 秦野伊勢原医師会循環器勉強会

### 腎臓, 内分泌, 代謝

- 1) 伊勢原リサーチセミナー (年 5 回)
- 2) 望星台糖尿病セミナー (年 3 回)
- 3) 神奈川県腎研究会 (年 2 回)
- 4) 神奈川県腎炎研究会 (年 2 回)
- 5) Yokohama Parathyroid & Bone Forum (年 2 回)
- 6) Kana Neph Seminar (年 2 回)

### 呼吸器, アレルギー

- 1) さがみ呼吸器疾患研究会 (年 2 回)
- 2) 湘南呼吸器画像研究会 (年 1 回)

### 神経

- 1) 神奈川県央・県西部ブレインネットワーク
- 2) 神奈川県西部脳卒中懇話会
- 3) 神奈川県脳卒中コンソーシアム
- 4) 西湘神経エキスパートミーティング
- 5) 神奈川県けいれん治療研究会

### 血液

- 1) 東海ブラッドカンファレンス (年 2 回)
- 2) 湘南血液研究会 (年 2 回)
- 3) 神奈川県血液研究会 (年 2 回)

4) 神奈川若手血液研究会 (年1-2回)

### 膠原病および類縁疾患

1) 膠原病胸部画像読影カンファレンス (年4回)

2) 湘南西部リウマチ性疾患症例検討会 (年2回)

### 感染症

1) 神奈川若手医師感染症セミナー

別表3

## 研修プログラムの施設群

### (1) 専門研修基幹施設

#### 東海大学医学部付属病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・東海大学医学部付属病院専攻医として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署(伊勢原健康推進室、人事課(心の相談室))があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が東海大学に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が58名在籍しています。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に行い(2023年度実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2023年度実績2演題)をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>川田浩志 【内科専攻医へのメッセージ】 東海大学医学部付属病院は、特定機能病院、地域がん診療連携拠点病院として様々な高度医療を提供すると同時に、高度救命救急センター・大規模集中治療室を有し、広域救急搬送システムである神奈川県ドクターヘリの運用医療機関でもありま</p>

	す。大学病院ならではの高度専門医療と内科全般的医療を同時に経験でき、専攻医の多様な希望を満し得るプログラムを準備しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 58 名、日本内科学会総合内科専門医 56 名、 日本消化器病学会専門医 14 名、日本肝臓学会専門医 5 名、 日本循環器学会専門医 17 名、日本内分泌学会内分泌代謝専門医 2 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓学会腎臓専門医 4 名、 日本呼吸器学会専門医 8 名、日本血液学会専門医 11 名、 日本神経学会専門医 6 名、日本アレルギー学会専門医(内科)3 名、 日本リウマチ学会専門医 3 名、日本感染症学会専門医 2 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 13 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名 ほか
外来・入院患者数	2023 年度 全科外来患者数 53,409 名(月平均延数) 2023 年度 全科入院患者数 24,001 名(月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、63 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本感染症学会専門研修施設 日本救急医学会指導医・専門医指定施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本透析医学会認定制度認定施設 日本老年医学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本リウマチ学会教育認定施設 臨床遺伝専門医認定研修施設 日本東洋医学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本心エコー図学会心エコー図専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会新家庭医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本超音波医学会超音波専門医研修施設 日本脈管学会認定研修指定施設、ステントグラフト実施施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本頭痛学会認定教育施設、日本脳神経血管内治療学会認定研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設



学会認定施設 (内科系)	日本睡眠学会睡眠医療認定医療機関 日本胆道学会指導施設、日本門脈圧亢進症学会技術認定教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設、日本ヘリコバクター学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本病院総合診療医学会認定研修施設 日本脳卒中学会研修教育施設、日本認知症学会教育認定施設
-----------------	---

## (2) 専門研修連携施設

### 東海大学医学部付属八王子病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・東海大学医学部付属八王子病院常勤医師として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署(事務課職員担当)があります。</li> <li>・ハラスメント相談員が東海大学医学部付属八王子病院に配置されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 29 名在籍しています。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科(一般)、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、膠原病及び類縁疾患、感染症、救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会において発表しています。
指導責任者	<p>教育研修部長 横山健次</p> <p>当院は 2002 年 3 月に八王子市を中心とした南多摩地区の基幹病院の一つとして設立されました。現在 31 科の診療科があり、500 床を擁する総合病院で最新鋭の医療機器を用いて高度な医療を提供しています。専門の医療スタッフも豊富で、あらゆる疾患に対応可能な医療体制を敷いています。また近隣の医療機関との病病連携、病診連携にも力を入れており、地域における高度急性期病院として積極的にその役割を果たしています。</p> <p>このように多彩な疾患を、外来、入院診療を通して経験できる地盤があります。また、他の診療科や、看護師、コメディカルとの連携も良好で、機能的な医療チームが構築できる環境であり、研修医からは大変学びやすい環境との感想を頂いています。</p> <p>さて、内科系各診療科の特徴ですが、消化器内科は全般的に経験が豊富ですが、中でも内視鏡的外科手術や経皮的肝臓治療の件数が多いことが挙げられます。循環器内科は冠動脈インターベンションやカテーテル・アブレーションなどの侵襲的治療や心臓リハビリテーションに力を入れています。神経内科は脳卒中、脳炎、髄膜炎などの急性疾患の患者さんが多く、地域の中核的な役割を果たしています。呼吸器内科は COPD、間質性肺疾患が得意ですが、また呼吸器外科との連携を強め、肺</p>

	<p>がん診療にも力を入れています。血液内科は白血病、リンパ腫など造血器腫瘍の経験が豊富で、多摩地区でも有数の症例数を誇っています。腎糖尿病内科は腎疾患、代謝疾患、糖尿病、生活習慣病など幅広い領域を担当しており、特にシャントトラブルなどの血液透析合併症では近隣施設から多くの紹介があります。リウマチ内科は様々な自己免疫性疾患に対応できる体制を整えております。さらに当院のもう一つの特徴は総合内科が併設されていることです。内科各分野に跨った病態をカバーしてくれており、また高齢者医療にも尽力しています。</p> <p>以上、当院ではほぼ内科全般にわたって研修することが可能で、研修医の数もそれほど多くないことから、研修医一人一人が多くの症例、様々な手技を経験することができます。また進路となるサブスペシャリティ領域の重点的な研修も可能です。是非、八王子病院にお越し下さい。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 33 名、日本内科学会総合内科専門医 19 名  日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、  日本内分泌学会専門医 0 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、  日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、  日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、  日本アレルギー学会専門医(内科) 0 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、  日本感染症学会専門医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 0 名、  日本肝臓学会肝臓専門医 4 名ほか</p>
外来・入院患者数	<p>2023 年度入院患者数(延): 14,448 名  2023 年度外来患者数(延): 329,083 名</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>高度急性期医療だけではなく、地域の中核病院として、医師会との医療連携の会を開催し、近隣の医療機関との連携も経験できます。  がん治療に力を注いでおり、内科、外科との連携による内視鏡治療、鏡視下手術、開腹手術、放射線治療など全てのがん治療に対応できる体制を取っています。  24 時間、365 日対応の二次救急体制を敷き、救命救急専門医による救急医療が経験できます。循環器系、脳神経系の救急医療についても、超急性期の血管障害に対し、血栓溶解療法や血管内治療などの最新治療が経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定教育施設  日本循環器学会研修施設  日本心血管インターベンション学会研修施設  日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設  日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション研修施設  日本呼吸器学会認定施設  日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設  日本がん治療認定医機構認定研修施設  日本アレルギー学会認定教育施設  日本消化器病学会認定施設  日本消化器内視鏡学会指導施設  日本肝臓学会認定施設  日本神経学会認定教育施設  日本脳卒中学会認定研修教育病院  日本頭痛学会認定教育施設  日本リウマチ学会教育施設  日本血液学会血液研修施設  日本透析学会認定施設  日本腎臓学会研修施設</p>

## 東海大学医学部付属東京病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度専門研修連携施設です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・東海大学医学部付属病院専攻医として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署(東京健康推進室)があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が東海大学に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が6名在籍しています。</li> <li>・教育・研修部のもと付属病院研修管理委員会の規定に準じ、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2020年度実績8回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンス(2021年度予定6回)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPCを定期的に開催(2021年度予定6回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・内科総合カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。2021年はCOVID-19カンファレンスに変わりました。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症の分野を網羅できる環境を用意しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会・地方会あるいは関連学会において年間で計1演題以上の学会発表(2020年度実績3演題)をしています。
指導責任者	白石光一 【内科専攻医へのメッセージ】 東海大学医学部付属東京病院は、大学病院でありながら一般病院に近い診療体制のため、専門診療に立脚したうえでの一般内科医としての研修が可能です。内科医としての「総合的臨床技能の向上」に重点を置いており、研修医としての診療手技の習熟だけでなく、より高度で専門的な手技に直接接し体験する機会を積極的に導入しております。また都内という立地を活かし、様々な学会・研究会へ比較的容易に参加できるため、興味ある疾患の基礎から最新診療の情報を得る機会にも恵まれています。是非私どものところで研修をしてみてください。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医5名、日本内科学会総合内科専門医3名、日本消化器病学会消化器専門医4名、日本肝臓学会専門医2名、日本消化器内視鏡学会専門医4名、日本循環器学会循環器専門医1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医3名、日本糖尿病学会専門医1名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 3,282名(1ヶ月平均) 入院患者 610名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、63疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本動脈硬化学会教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設

学会認定施設 (内科系)	日本消化管学会胃腸科指導施設 日本食道学会全国登録認定施設 日本気管食道学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本病態栄養学会研修認定施設
-----------------	--

## 池上総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・池上総合病院専攻医として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署があります (希望者にカウンセラーと面談可能)。</li> <li>・ハラスメント委員会が松和会及び院内に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、休憩室、シャワー室、当直室が整備されています(ただし、女性専用は更衣室のみ)。</li> <li>・療児保育のみ利用料の一部負担制度があります。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会指導医が 11 名在籍しています。</li> <li>・教育計画部・臨床研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌代謝、腎臓、呼吸器、神経、膠原病、感染症および救急の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	植田 充(ワサダ ミツル) 【内科専攻医へのメッセージ】 池上総合病院は、384の病床を持ち、一般病床 248 床(うちICU14 床)、療養病床 47 床、回復期リハビリ病床 47 床、地域包括ケア病床 42 床備えています。二次救急指定病院であり、内科急性期医療と慢性期医療を同時に経験できる独自のプログラムを準備していますので、是非、私どものところで研修なさってください。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 12 名 日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会専門医 6 名(うち指導医 3 名) 日本消化管学会胃腸科専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会専門医 9 名(うち指導医 2 名) 日本肝臓学会専門医 5 名(うち指導医 1 名) 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本呼吸器学会指導医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名(うち研修指導医 1 名) 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名 日本糖尿病協会療養指導医 1 名(うち研修指導医 1 名) 日本腎臓学会腎臓専門医 7 名(うち指導医 4 名)

	日本透析医学会専門医 3名(うち指導医 2名) 日本救急医学会専門医 1名
外来・入院患者数	外来患者数 16,928 人/月、入院患者数 7,510 人/月
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 63 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会専門研修プログラム連携施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器学会関連施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設

## 伊勢原協同病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・健康診断年 2 回, インフルエンザ予防接種(病院負担)等の安全衛生を整備しています。</li> <li>・臨床心理士による「職員相談」を随時受けることが可能です。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 8 名在籍しています(下記)。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2023 年度実績 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンス(2024 年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的で開催(2023 年度実績 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス(2023 年度実績 12 回)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2021 年度実績 2 演題)をしています。
指導責任者	大野 隆 【内科専攻医へのメッセージ】 伊勢原協同病院は、市中の地域中核病院として、きめ細かい研修が受けられるよう

	な研修プログラムを準備し、豊富な症例、豊富な経験ができるよう配慮しています。地域に密着した病院で common diseases を数多く最前線で診ることができます。また、看護師・コメディカルとの連携が密であり、とても働きやすい環境です。是非私どものところで研修をしてみてください。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 8 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器指導医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 6 名、 日本肝臓学会専門医 2 名、日本肝臓学会暫定指導医 1 名、 日本消化器内視鏡学会指導医 3 名、日本消化器内視鏡学会専門医 6 名、 日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本糖尿病学会指導医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本腎臓学会指導医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会専門医 2 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名
外来・入院患者数	内科外来患者 7,407 名(1ヵ月平均) 内科入院患者 233 名(1ヵ月平均退院数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 63 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会専門医研修関連施設 日本呼吸器病学会認定施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本神経学会専門医教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本胃癌学会認定施設 B 日本大腸肛門病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度特別連携施設

## 海老名総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。</li> <li>・海老名総合病院常勤医師として労務環境が保障されている。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署(本部または産業医・臨床心理士)がある。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 31 名在籍している。</li> <li>・プログラム管理委員会を設置して基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。</li> </ul>

2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修管理委員会を設置する。</li> <li>・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・施設実地調査に対応可能な体制である。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。</li> <li>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できる。</li> <li>・専門研修に必要な剖検を行っている。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 4) 学会活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研修に必要な図書室を整備している。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間 3 演題以上の学会発表をしている。</li> </ul>
指導責任者	香取 秀幸 (腎臓内科 部長)
指導医数	日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器病専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本腎臓病学会腎臓専門医 6 名 日本血液学会血液専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本透析学会専門医 4 名 日本アレルギー学会専門医 2 名 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 10 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者数:357.8 人/日 (令和 3 年度) 入院患者数:351.5 人/日 (令和 3 年度)
経験出来る疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験出来る技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験出来る地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本透析医学会透析専門医制度認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院

## 小田原市立病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。</li> <li>・小田原市の正規職員(地方公務員)の医師として労務環境が保障されている。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。</li> <li>・監査委員・コンプライアンス担当が小田原市に整備されている。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室が整備されている。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 13 名在籍している。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。</li> <li>・専門研修に必要な剖検を行っている。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に行っている。</li> <li>・治験管理室を設置し、定期的に行い研究審査会を開催している。</li> <li>・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われている。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>弓削 大</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>小田原市立病院は、神奈川県西地域の基幹病院として、急性期医療及び高度医療に取り組んでおります。また、各大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。また、地域がん診療連携拠点病院としての機能を有しているため、今後さらに重要性が増すがん診療含め、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 1076 名(／日) 入院患者 368 名(／日)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。また、3次救命救急センターを有しているため、内科系においてもエマージェンシーの経験をすることができます。循環器領域に関しては、心筋梗塞、狭心症、虚血性心疾患などのインターベンション治療、アブレーション不整脈治療、消化器領域に関しては緊急内視鏡治療、糖尿病性ケトアシドーシス治療、急性腎不全に対する透析治療など、幅広く経験することができます。</p>



学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育施設 日本消化器学会専門医認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修医施設教育病院 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 など
-----------------	---

## 国立がん研究センター東病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内に研修に必要なインターネット環境が整備されている。</li> <li>・適切な労務環境が保障されている。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携できる。</li> <li>・ハラスメント委員会が整備されている。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている。</li> <li>・敷地内外を問わず保育施設等が利用可能である。</li> </ul>
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が1名以上在籍している(下記)。</li> <li>・研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ることができる。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 (2023年度実績:医療倫理4回、医療安全2回、感染対策講習会2回)</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。</li> <li>・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、血液、感染症の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診察している。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	<p>内藤 陽一</p> <p><b>【内科専攻医へのメッセージ】</b></p> <p>国立がん研究センター東病院は、世界最高のがん医療の提供、世界レベルの新しいがん医療の創出を行う最高峰の施設です。がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療中核拠点病院、特定機能病院等にも指定され、豊富な症例経験、様々な領域を専門とする指導医によるがん診療を含め、高度な技能の習得が可能です。様々な臓器にまたがる疾患を経験することにより、内科専門医としての幅広い知識や技能を習得することと共に、コミュニケーションスキル・トレーニングや、チーム医療、地域医療との連携により、全人的な医療従事者として活躍できるための支援・指導を行います。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 21 名 (うち日本内科学会総合内科専門医 17 名)、 日本臨床腫瘍学会指導医 18 名、がん薬物療法専門医 17 名、 日本肝臓学会指導医 1 名、肝臓専門医 7 名 日本血液学会指導医 3 名、血液専門医 6 名 日本呼吸器学会指導医 3 名、呼吸器専門医 6 名 日本消化器病学会指導 8 名、消化器病専門医 25 名 ほか
外来・入院患者数	2023 年度月平均延べ数 外来患者 28,422 名、入院患者 11,967 名
経験できる地域医療・診療連携	地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設

学会認定施設 (内科系)	日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 など
-----------------	---

## 相模原協同病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・メンタルストレスに対し総務管理課、産業医が適切に対応します。</li> <li>・ハラスメント等に対する相談室が整備されており臨床心理士が対応します。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるよう休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所、病児保育室が設置されており一時保育も可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 78 名在籍しています。</li> </ul> <p>基幹プログラムに対する研修委員会を設置して、専攻医の研修を管理し、定期的に委員会を開催することにより見直し、改善をしていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催(各年 2 回)し、義務付け、その為の時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催(年 3~4 回)し専攻医に受講を義務付け、その為の時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<p>主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標としています。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域のどの疾患を受け持つかについては多様性があるため、専門研修年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスを設定しています。</p>
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します。</li> <li>・経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。</li> <li>・臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。</li> <li>・内科学に通じる基礎研究を行います。</li> </ul> <p>上記を通じて科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。 内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います。</p>
指導責任者	<p>荒木正雄</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>神奈川県相模原医療圏に限定せず、1) 高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 25 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名、 日本消化器病学会専門医 6 名、日本肝臓学会専門医 2 名、 日本循環器学会専門医 10 名、日本内分泌学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会専門医 2 名、日本血液学会専門医 1 名、 日本神経学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 0 名、 日本老年医学会専門医 0 名、ほか</p>
外来・入院患者数	2023 年度実績 外来患者 31,106 名・入院患者 11,354 名

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	コモンディージーズの経験は勿論、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定制度教育関連病院、日本呼吸器学会関連施設、日本透析医学会教育関連施設、日本循環器学会研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、一般社団法人日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本急性血液浄化学会認定指定施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本認知症学会教育施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本小児科学会認定教育施設、日本循環器学会大規模臨床試験(JPPP)参加施設、日本輸血細胞治療学会認定指定施設、日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定研修施設、日本腎臓学会認定教育施設

## 諏訪中央病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師臨床研修制度における基幹型臨床研修病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・組合立諏訪中央病院の会計年度任用職員として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課庶務係)があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が院内に整備されています。</li> <li>・女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は15名在籍しています。(2023年度時点)</li> <li>・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(2022年度実績:各2回)して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPCを定期的に行う(2022年度実績:5回)して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型カンファレンス(病院・開業医合同勉強会『二水会』(例年4回開催、2022年度は感染対策のため中止)、地域合同カンファレンス(例年4回開催、2022年度は感染対策のため中止))を定期的に行うして専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンス(内科ケースカンファレンス)を定期的に行うして専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・専門研修に必要な剖検(2021年度6体、2022年度3体)を行っています。</li> </ul>
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室等を整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置/開催しています。</li> <li>・臨床研修・研究センターを設置して研究に関するとりまとめを行っています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3題以上の発表をしています。</li> </ul>
指導責任者	<p>若林 禎正</p> <p><b>【内科専攻医へのメッセージ】</b></p> <p>患者のどのような訴えにも耳を傾け、その原因となる疾患を明らかにし、専門治療が必要な場合には迅速に専門医へ紹介する能力を養います。先進医療だけではなく、</p>

	回復期リハビリ病棟でのケアや慢性疾患に対する外来診療、通院ができない場合には訪問診療・往診をし、シームレスで患者や家族の生活に寄り添う医療を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 15 名 日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本救急医学会救急科専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本感染症学会感染症専門医 2 名 他
外来・入院患者数	外来患者 17,228 名(全科 1 ヶ月平均)(令和 3 年度実績) 入院患者 598 名(全科 1 ヶ月平均)(令和 3 年度実績)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、救急の分野で症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定新家庭医療専門研修プログラム施設 日本東洋医学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本静脈経腸栄養学会・NST稼働施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会関連施設 日本在宅医学会認定在宅医療研修プログラム施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本臨床神経生理学会準教育施設 他

## 多摩南部地域病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。UptoDate, その他文献検索の環境が整っています。</li> <li>・地方独立行政法人東京都立病院機構 任期付病院職員(非常勤)として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。</li> <li>・多摩南部地域病院では、セキシュアル・ハラスメント相談窓口を設置しています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・保育所利用に関して支援制度があります。</li> </ul>
認定基準	・指導医は 13 名在籍しています(下記)。

<p>【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療医長)(ともに総合内科専門医かつ指導医); にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター(2024年度中に整備)を設置します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。院内におけるeラーニングも活用します。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2024年度より開始予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。隔地の連携施設とはテレカンファレンスを開催します(指導医の相互訪問指導なども予定しています)。</li> <li>・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス(内科症例検討会、多摩南部地域病院特別講演会・講習会など)を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(連携施設の多摩総合医療センター開催分に参加)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・特別連携施設(島しょ等診療所群)の専門研修では、電話や週1回の多摩南部地域病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも7分野以上)で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。</li> <li>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます(上記)。</li> <li>・専門研修に必要な剖検(2022年度実績2体, 2023年度4体)を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に行っています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。内科副部長の本城聡は、内科学会地方会の座長を複数回経験しています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>本城 聡</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>多摩南部地域病院は、東京都南多摩医療圏の中心的な急性期病院であり、南多摩医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名、 日本消化器病学会消化器専門医 3 名・同指導医 2 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 3 名・同指導医 1 名、 日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名・同指導医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名・同指導医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名・同指導医 0 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名・同指導医 2 名、 日本緩和医療学会認定医 2 名、 日本病院総合診療医学会認定病院総合診療医 2 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 8,653 名(1ヶ月平均) 入院患者 601 名(1ヶ月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>

経験できる地域医療・診療連携	多摩ニュータウン地区は全国的にも急激な高齢化が問題となっている地域です。急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 など

## 東名厚木病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・東名厚木病院常勤医員として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・法人内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が1名在籍しています。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2021年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 11 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催(2021年度実績 1 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、腎臓、呼吸器、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	<p>大山 聡子</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は地域に密着した地域支援医療病院として機能しており、急性期を中心とした医療を幅広く経験することができます。救急車は年間 5000 台程度受け入れており、様々な主訴で来院する患者に対し、自分の力で「適切な治療」を「適切なタイミング」で行うことができるようになることを目標に研修を行います。</p> <p>さらに、病院において訪問診療を行っており、在宅医療にも数多く関わることができます。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 1名、日本内科学会総合内科専門医 4名、 日本消化器病学会消化器専門医 5名、日本循環器学会循環器専門医 3名、 日本糖尿病学会専門医 1名、日本腎臓学会腎臓専門医 2名ほか
外来・入院 患者数	外来患者 2,839名(1ヶ月平均) 入院患者 7,494名(1ヶ月平均数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある7領域の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

## 虎の門病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研修制度における基幹型臨床研修病院です。</li> <li>研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>虎の門病院常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>メンタルストレスに適切に対処する部署があります。</li> <li>ハラスメント相談員・相談窓口が整備されています。</li> <li>院内保育所が利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>内科専門医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>CPC を定期的開催します。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	内科全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	内科系学会において、内科専攻医が筆頭演者の発表を年間で 20 件ほど行っています。
指導責任者	森 保道
指導医数(常勤医)	57 名
外来・入院患者数	外来患者数 2,505 名(2023 年度 1 日平均) 入院患者数 628 名(2023 年度 1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	虎の門病院(基幹病院)において症例経験や技術取得を積み重ねることと並行して、連携施設において、地域住民に密着し、病院間連携や病診連携を実践する立場を経験することにより、地域医療の経験を積みます。

学会認定施設 (内科系)	<p>虎の門病院内科専門研修プログラム基幹施設</p> <p>日本血液学会研修認定施設</p> <p>日本内分泌学会認定教育施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本呼吸器学会専門医制度認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設</p> <p>日本消化器病学会専門医制度認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設</p> <p>日本肝臓学会専門医制度認定施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設</p> <p>日本脳卒中学会研修教育病院</p> <p>日本老年医学会認定施設</p> <p>日本循環器学会専門医制度研修施設</p> <p>日本腎臓学会認定教育施設</p> <p>日本透析医学会専門医制度認定施設</p> <p>日本リウマチ学会認定教育施設</p> <p>日本神経学会認定教育施設</p> <p>日本感染症学会認定研修施設</p> <p>日本腫瘍学会認定研修施設 ほか</p>
-----------------	---

## 秦野赤十字病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署(メンタルヘルス相談室)があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が整備されています。</li> <li>・臨床研修医室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が7名在籍しています。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を開催しています。</li> <li>・CPC 委員会を年間2回開催しています。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスとして、地域医療連携懇話会を開催しています。</li> </ul>
認定基準 3)診療経験の環境	内科領域のうち、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、神経内科および救急分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	・内科学会ははじめ他の内科系学会への学会発表希望者には指導医からの症例選定や発表指導を受けられます。
指導責任者	<p>澤田 玲氏</p> <p><b>【内科専攻医へのメッセージ】</b></p> <p>救急部門は東海大救急医療科より専門医が派遣されており、幅広い2次救急患者を受け入れています。入院から退院までの一連の経過を指導医と経験することで、専門医取得に向けて技能と知識を習得できるように準備しています。大規模病院と違った、指導医との距離の近い関係性の研修を心がけています。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会認定総合内科専門医7名、日本人間ドック学会専門医1名、日本消化器病学会消化器専門医3名、日本消化器内視鏡学会専門医3名、日本肝臓学会専門医1名、日本循環器学会循環器専門医3名、日本腎臓学会腎臓専門医1名、日本神経学会専門医1名、日本透析医学会専門医1名、日本高血圧学会専門医1名、日本心血管カテーテル治療学会専門医1名、日本外科学会専門医1名、日本整形外科学会専門医1名、日本泌尿器学会専門医1名、日本小児学会専門医1名 ほか
外来・入院患者数	外来患者9、324名(1ヶ月平均) 入院患者6、337名(1ヶ月平均延数)



経験できる地域医療・診療連携	秦野市の中核病院として開業医と密に連携をとっており、救急から慢性期までの地域医療を担う病院として、救急医療や継続的な医療、高齢者医療や緩和医療を赤十字理念に基づいて実施しています。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定制度教育関連施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本インターベンション学会研修関連施設

## 平塚市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・ 常勤医師として採用され、安定した身分保障および労務環境が整えられています。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する部署が平塚市役所内にあります。</li> <li>・ ハラスメント委員会が平塚市役所内に整備されています。</li> <li>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・ 敷地内に院内保育所があり、週 2 日は 24 時間利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内科学会指導医が 17 名(2020 年度)在籍しています。</li> <li>・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2019 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 10 回、感染対策 14 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。</li> <li>・ 研修施設群合同カンファレンス(2021 年度予定)を予定し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。</li> <li>・ CPC を定期的開催(2019 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。</li> <li>・ 地域参加型のカンファレンス(2019 年度実績 4 回、全診療科含め 22 回)を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、感染症及び救急の分野で専門研修可能な症例数を診療しています。また、血液、膠原病についても非常勤医師指導の下、外来入院診療を行っています。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2019 年度実績 8 演題)をしています。</li> </ul>
指導責任者	<p>厚川 和裕</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>湘南西部の風光明媚な平塚市の文教地区に位置する地域中核急性期病院で、専攻医は自治体病院常勤医師として安定した身分が保証されています。</p> <p>高度急性期、急性期だけでなく回復期の患者さんや多くの疾患を抱える高齢者まで、市民病院ならではの幅広い患者層を対象に多くの疾患のさまざまな時点での診療を経験することが出来ます。</p> <p>平成 28 年度に新棟がオープンし、ゆったりとした外来・病棟、最新の設備を備えた救命病床や ICU/CCU、外来化学療法室・透析室・手術室、広いリハビリ室などが新棟内に設置されています。また 320 列 CT や IVR-CT などの先進機器に加えて、新棟開設に伴い最新鋭のリニアックも設置され、県指定がん連携拠点病院として高度ながん診療体制も整っています。</p>

	<p>内科の広範な診療を支えるため、主な領域には常勤指導医がおり、また血液・リウマチ内科等は大学派遣の非常勤医師の指導を受けられます。放射線科や外科系診療科のスタッフも充実しており、救急医療に関しては、平塚市民病院救命救急センターを有し救急科専門医を中心に湘南西部地域の中心病院として高度急性期疾患にも対応しています。</p> <p>さまざまなカテゴリーの内科疾患を一症例ずつ丁寧にしっかりと診療できる、充実した専門医研修を目指しています。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 4 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医 0 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 0 名、 日本感染症学会専門医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか (2020 年度)</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 16,787 名(1ヶ月平均) 入院患者 349 名(1ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群のうち、かなりの領域・疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>高度急性期、急性期医療のほか、回復期やさまざまな疾患を抱えた高齢者医療さらには高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化管学会指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練施設 日本 IVR 学会専門医修練施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脳神経学会専門医研修施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本アレルギー学会専門医制度教育研修施設 厚生労働省指定臨床研修病院 など</p>

## 横浜旭中央総合病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・横浜旭中央総合病院常勤医師として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が横浜旭中央総合病院に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・病院近傍に職員用保育所があり、病児保育も利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が7名在籍しています。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経、膠原病、腎臓、内分泌および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>保坂 宗右</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会総合内科専門医 9 名、日本腎臓学会指導医 1 名、日本透析医学会指導医 1 名、日本神経学会指導医 4 名、日本肝臓学会認定指導医 1 名、日本リウマチ学会指導医 1 名、日本消化器病指導医 4 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名 ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 16,526 名(1ヶ月平均) 入院患者 405 名(1日平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、63 疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院</p>

学会認定施設 (内科系)	日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 など
-----------------	---

## 大阪公立大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院(基幹型研修指定病院)です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪公立大学医学部附属病院前期研究医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(安全衛生担当)があります。 ・ハラスメント委員会が大阪市立大学に整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 97 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2023 年度実績 医療安全 8 回、感染対策 14 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催(2023 年度実績 10 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野のすべてにおいて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計 1 演題以上の学会発表(2022 年度実績 16 演題)をしています。
指導責任者	川口 知哉(大阪公立大学内科連絡会教授部会長) 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪公立大学は大阪府内を中心とした近畿圏内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 97 名、日本内科学会総合内科専門医 75 名、 日本消化器病学会消化器専門医 30 名、日本アレルギー学会専門医(内科)7 名、 日本循環器学会循環器専門医 14 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 4 名、日本感染症学会専門医 4 名、 日本腎臓病学会専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 12 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 15 名、日本老年学会老年病専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医 11 名、日本肝臓学会肝臓専門医 11 名、 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本消化器内視鏡学会専門医 21 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 144,443 名(延べ数) 入院患者 71,496 名(延べ数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院、 日本消化器病学会認定施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本腎臓学会研修施設、 日本アレルギー学会認定教育施設、 日本消化器内視鏡学会 認定指導施設、 日本循環器学会認定循環器専門医 研修施設、 日本老年医学会認定施設、 日本肝臓学会認定施設、 日本超音波医学会認定超音波 専門医制度研修施設、 日本透析医学会認定医制度 認定施設、</p>	<p>日本血液学会認定研修施設、 日本神経学会認定教育施設、 日本脳卒中学会認定研修教育病院、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科 認定教育施設、 日本東洋医学会研修施設、 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、 日本肥満学会認定肥満症専門病院、 日本感染症学会認定研修施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設、 ステントグラフト実施施設、 日本認知症学会教育施設、 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設、 日本リウマチ学会認定教育施設、 など</p>
-------------------------	--	---

### 国立がん研究センター中央病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<p>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立研究開発法人非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事課職員担当)があります。 ・監査・コンプライアンス室が国立研究開発法人に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<p>・内科学会指導医は6名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2022年度実績 医療安全2回、感染対策2回)。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催(2022年度実績7回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(2022年度 多地点合同メディカル・カンファレンス15回)を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、血液および感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検(2022年度実績15体)を行っています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<p>・倫理委員会を設置し、定期的研究倫理委員会を開催(2022年度実績12回)しています。 ・治験管理室を設置し、定期的治験審査委員会を開催(2022年度実績24回)しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>大江 裕一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療(標準治療、臨床試験・治験)、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーに加え、在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連し</p>

	た地域医療・診療連携についても経験できます。また、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんと関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます。国立がん研究センター中央病院での研修を活かし、今後さらに重要性が増すがん診療含め、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。	
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 24 名、 日本消化器病学会消化器専門医 26 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 43 名、日本血液学会血液専門医 13 名 ほか	
外来・入院患者数	新入院患者数(延数)18,570 名、総外来患者数(延数)382,000 名(2022 年度)	
経験できる疾患群	1. 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群のうち、全ての固形癌、血液腫瘍の内科治療を経験でき、付随するオンコロジーエマーゼンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2. 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんと関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。	
経験できる技術・ 技能	1. 日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療(標準治療、臨床試験・治療)、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーなど、幅広いがん診療を経験できます。 2. 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。	
経験できる地域医療・ 診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。	
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会 日本緩和医療学会 日本血液学会 日本呼吸器学会 日本呼吸器内視鏡学会 日本産科婦人科学会 日本小児科学会 日本消化管学会	日本消化器内視鏡学会 日本カプセル内視鏡学会 日本消化器病学会 日本精神神経学会 日本胆道学会 日本超音波医学会 日本乳癌学会 日本臨床腫瘍学会 など

## 湘南大磯病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室は 24 時間利用でき、インターネット環境が整備されています。</li> <li>・医師としての適切な勤務環境が保証されます。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する窓口があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・2024 年度中に院内保育所を開設予定です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科学会指導医が 5 名在籍しています。</li> <li>・研修委員会を設置して、院内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策の講習会を定期的に開催します。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催し、また、基幹施設で行う CPC、あるいは日本内科学会が企画する CPC を専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、消化器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症の 9 分野を網羅できる環境を有しています。総合内科に関しては専門各科が協力し応需をしており、内科研修内に経験が</li> </ul>

	<p>できます。また、救急部はありませんが(今後独立する予定ですが)、現在は輪番二次内科救急を指導医のもとで経験することにより、地域に根差した全人的な医療の担い手としての素養を形成する研鑽を積むことが可能です。</p> <p>・剖検は湘南藤沢病院の病理部と連携して行っています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<p>・臨床研究が可能な環境が整っております。学会には積極的に参加できる体制をとっており、論文などの英文翻訳の援助も行っております。</p> <p>・倫理委員会を設置し、定期的を開催しています。</p> <p>・臨床研究センターおよび治験センター等が設置されています。</p> <p>・日本内科学会講演会・地方会、あるいは関連学会において、年に複数の演題の発表を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>高橋佐枝子 【内科専攻医へのメッセージ】 東海大学大磯病院からの事業継承を受け、“湘南大磯病院”として令和5年3月に新たなスタートをきりました。湘南大磯病院は神奈川県西湘地域において、特に中郡(大磯町、二宮町)地域の2次救急医療を担い、地域医療の中核を支えることを使命としています。救急を断らないという理念のもと、様々な疾患について実践の機会を提供する環境が整っています。また、中規模の病院であることから、指導医による密接な質の高い研修を受けられるため、スキルと知識を着実に高めることができます。私たちは、専攻医の皆さんが湘南大磯病院での経験を通じて成長し、医療の最前線で活躍できるような医師になれるように全力でサポートいたします。地域医療に貢献する使命感と共に、私たちと一緒に未来に医療を築いていく貴重な時間を過ごしていただけることを心から楽しみにしています。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 5名、総合内科専門医 4名、日本内科学会内科専門医 1名、 日本循環器学会循環器専門医 5名 日本心血管インターベンション治療学会専門医 3名 日本消化器病学会認定消化器専門医 4名、日本消化管学会胃腸科専門医 2名、 日本肝臓学会肝臓専門医 1名、日本胆道学会認定指導医 1名 日本腎臓病学会専門医 2名 日本神経学会神経内科指導医 2名・専門医 3名 日本脳卒中学会指導医 1名・専門医 2名 日本認知症学会指導医 1名・専門医 1名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医 1名・専門医 2名 日本抗加齢医学会専門医 1名</p>
<p>外来・入院患者数 (年間)</p>	<p>新入院患者数(延数) 2,598名(2023年度) 総外来患者数(延数) 4,664名(2023年度)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、63疾患群のうち、きわめて希な疾患を除いて、多数の外来・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・ 技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づき幅広く経験できます。循環器科に関しては、積極的に冠動脈造影、冠動脈インターベンション治療、心エコーの経験を、消化器科では内視鏡、腹部エコーの経験を積む事ができます。</p>
<p>経験できる地域医療・ 診療連携</p>	<p>当院における診療は24時間対応を目標としています。初期対応から幅広い急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本循環器病学会研修施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本神経学会准教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設</p>

## 国立病院機構相模原病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。</li> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。</li> <li>・ 国立病院機構のシニアレジデントとして労務環境が保障されている。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する窓口がある。</li> <li>・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能である。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内科指導医が 21 名在籍している。</li> <li>・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。</li> <li>・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催している(2020 年度実績医療倫理に関しては研究センター主導で CITI Japan の受講を促し、倫理委員会についても月一回程度定期的に行っている。医療安全講習、感染対策に関しても年 2 回以上の開催をしている)。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ 研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> <li>・ CPC を定期的に開催(2022 年度実績 5 回、2023 年度実績 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、呼吸器、神経内科、アレルギー、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。また、総合内科に関しては専門各科が協力し応需をしており、内科研修内に経験可能である。</p> <p>感染症については、症例は十分存在し、また救急部はないが一般二次内科救急を輪番で経験することにより、これらの分野に対する研鑽を積むことが可能である。</p>
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<p>日本内科学会地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2014 年度実績 3 演題)をしている。</p>
指導責任者	<p>責任者:森田有紀子</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は、相模原地域の二次救急病院であり、地域支援病院として同地域の診療を支える一方で、免疫異常(リウマチ、アレルギー)の我が国の基幹施設として臨床研究センターを併設した高度専門施設としての役割が期待されています。</p> <p>それらの事情から、当施設において総合内科専門医を教育、輩出し、またサブスペシャリティの専門領域の研鑽を積むことができる施設として、内科教育の場を提供し、優れた臨床医の育成に努めています。</p>
指導医数& 各科専門医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医(内科)8 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本血液内科学会 1 名 ほか</p>
外来・入院患者数	<p>内科外来患者 5,886 名(1ヶ月平均)</p> <p>内科入院患者 291 名(1ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群、200 症例のうち、189 症例を経験することが可能です。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本アレルギー学会認定教育施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p>



学会認定施設 (内科系)	日本肝臓学会認定施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本神経学会専門医認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設、日本血液内科学会認定教育施設 など
-----------------	--

### (3) 専門研修特別連携施設

#### 国立病院機構神奈川病院

認定基準 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・敷地内に居住施設があり利用可能です。 ・敷地内に保育所があり利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が2名在籍しています(下記)。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催します。 ・地域参加型のカンファレンスを年数回開催します。
認定基準 3)診療経験の環境	呼吸器を中心として総合内科、消化器、循環器、アレルギー、感染症および救急の分野で研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	大久保 泰之
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医2名、日本内科学会総合内科専門医1名 日本呼吸器学会呼吸器指導医2名 日本呼吸器内視鏡学会指導医2名 結核・抗酸菌症指導医3名 日本消化器病学会消化器専門医1名 日本リウマチ学会専門医1名 日本救急学会専門医1名
外来・入院患者数	外来患者名6000人(1ヶ月平均) 入院患者名8500人(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	結核に対する基幹病院であり多彩な結核症例を経験出来ます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	二次救急病院としての地域救急と、高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

#### 国立病院機構箱根病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院である。 ・施設内に研修に必要なインターネット環境が整備されている。 ・適切な労働環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携することができる。 ・ハラスメント対応の窓口があり、適切な対応が可能である。 ・女性専攻医が安心して勤務できる休憩室や更衣室がある。 ・敷地内の保育施設が利用可能である。
認定基準 【整備基準24】	・日本神経学会指導医が在籍している。 ・研修委員会を設置して施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ることができる。

2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に行っている。また、専攻医に受講のための時間的余裕を与え受講を義務づけることができる。</li> <li>・研修施設群共同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医にそのための時間的余裕を与え受講を義務づけることができる。</li> <li>・基幹施設で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC を受講するための時間的余裕を与え受講を義務づけることができる。</li> <li>・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講のための時間的余裕を与え受講を義務づけることができる。</li> </ul>
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す神経内科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本神経学会学術大会において発表を行っている。 国立病院総合医学会において発表を行っている。
指導責任者	副院長 荻野裕
指導医数 (常勤医)	日本神経学会指導医 5 名(今井、荻野、三原、大熊、津田) 日本内科学会総合内科専門医 4 名(阿部、北尾、大熊、津田) 日本リハビリテーション医学会指導医 1 名(荒巻)
外来・入院患者数	1 日平均外来患者数 341 人 1 日平均入院患者数 147.8 人
経験できる疾患群	神経内科 9 疾患群のうち、8 疾患群の患者の診療ができる。 中でも神経難病、筋ジストロフィー、パーキンソン等について多くの症例を経験することができる。
経験できる技術・技能	筋電図、髄液穿刺、等
経験できる地域医療・診療連携	訪問看護を行っており、経験することができる。
学会認定施設(内科系)	日本神経学会専門医制度教育施設

## 海老名メディカルプラザ

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	同一法人である海老名総合病院が管理と指導の責任を行います。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	同一法人である海老名総合病院が管理と指導の責任を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	同一法人である海老名総合病院を主とし、外来および在宅研修などを海老名メディカルプラザで行います。
指導責任者	責任者: 香取 秀幸
外来患者数 (1 日平均)	外来患者数: 864.8 人/日 (令和 1 年度)
経験出来る疾患群	コモンディーズを中心とした外来診療、在宅診療を経験することが可能です。
経験出来る技術・技能	外来診療技能および在宅診療管理を習得することが可能です。
経験出来る地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした慢性疾患のコントロールと在宅診療との連携なども経験出来ます。

## とうめい厚木クリニック

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期臨床研修における地域医療研修施設です。</li> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・ とうめい厚木クリニック非常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する部署があります。</li> <li>・ ハラスメント委員会が整備されています。</li> <li>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室が整備されています。</li> <li>・ 法人内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。</li> </ul>
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラム プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・ 同法人の東名厚木病院で行う医療倫理・医療安全・感染対策講習会(2021年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 11 回、感染対策 2 回)の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 同法人の東名厚木病院で行うCPC(2021年度実績 1 回)の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 同法人の東名厚木病院で行う地域参加型のカンファレンスの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、腎臓、呼吸器の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	河野 昌史 【内科専攻医へのメッセージ】 とうめい厚木クリニックは、隣接する東名厚木病院の外来部門を担っているクリニックです。救急部門は東名厚木病院にあります。外来通院できる方を主な対象者として、地域医療に貢献しています。 訪問診療や在宅医療にも数多く関わることができます。
指導医数 (常勤医)	日本糖尿病学会専門医 1名ほか
外来・入院患者数	外来患者 14,220 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳(疾患群項目表)</u> にある7領域の症例を経験することができます。
経験できる技術・ 技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、入院後の外来診療や訪問診療ができます。